



TAIWA TOWN ASSEMBLY

これからの大和町議会の

# あり方 プロジェクト

REPORT | 2021-2022  
Vol.01

これからの議会ってなに？ 理想の議員像は？

住民とともに歩む  
プロジェクトが始動

いま、全国的に議員のなり手不足が深刻化しています。

「これからの大和町議会のあり方プロジェクト」は、

わたしたちが住む町の将来を見据え、

議会や議員のあるべき姿などに視点を置き、

議員のなり手不足という課題を総合的に探ってきました。

黒川高校生や、宮城大学生のほか、

10代から70代まで幅広い世代の男女24人が

「これからの大和町議会のあり方ゼミナール」の研究員となり、

ときには議員と一緒に、セミナーやワークショップで

新しい議会や理想の議員像について語り合いました。

01

これからの大和町議会のあり方プロジェクト 2021-2022 Vol.01

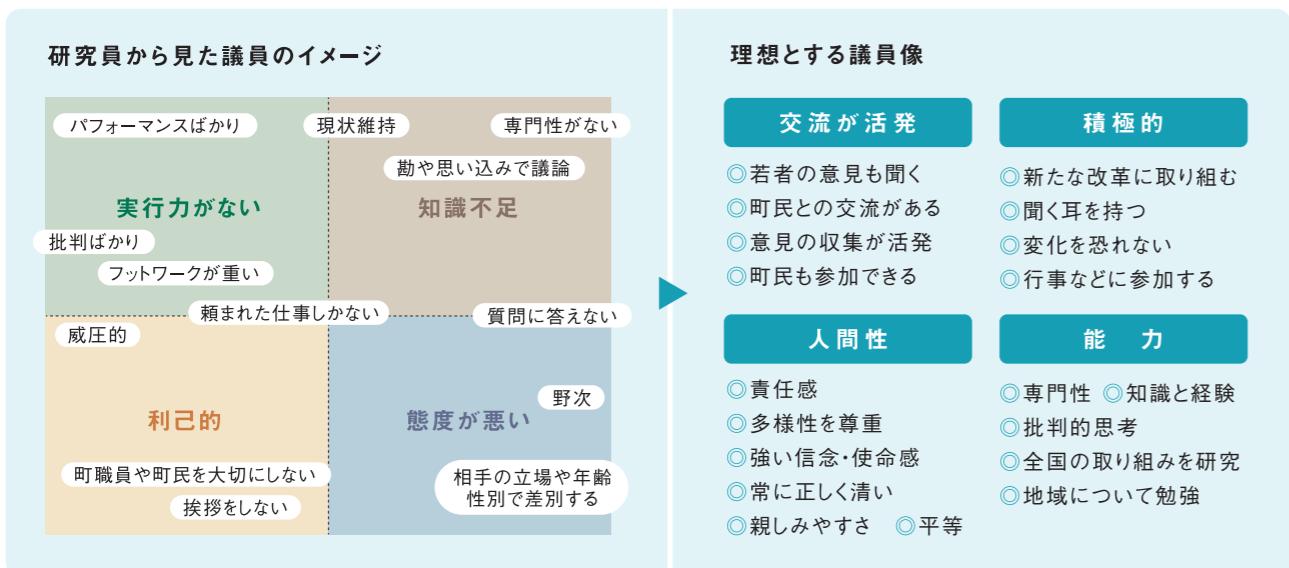
研究員

## 本音から探る、理想の議員像とは？

令和3年第1・2回のプロジェクトは、研究員が普段感じている議員のイメージと理想の議員像を本音で語り合いました。

「こんな議会はイヤだ！」の問いかけに対するイメージは、偉そう、居眠りしてる、など、

メディアで目にする偏った議員の姿もありました。研究員が思い描く理想の議会や議員は、どんな姿でしょうか。



基調講演セミナー



議員の望ましくないイメージだけで、議会の評価を決めてしまっていないか。木を見て森を評価してはいけない。議員は有権者の写し鏡。議会を変えるだけでなく、有権者の意識も変えていくきっかけになればいい。民主主義には、多様な意見の反映と人の話を聞く寛容さが欠かせない。多様で寛容な議会が求められている。すでに皆さん、理想像としてそこに気づいている。

かわむら かずのり  
**河村 和徳氏**  
東北大学大学院 情報科学研究科 人間社会情報科学専攻 准教授  
全国都道府県議会議長会 都道府県議会デジタル化専門委員会座長、総務省 地方議会・議員のあり方に関する研究会などを歴任。地方自治・地方議会関連の研究をし、新聞、ラジオなどでも活躍されています。

### STAGE.1 令和3年度のワークショップ日程と内容

開催時期	テーマ	活動内容
令和3年	11月20日(土) 【第1回】地方議会の状況とこれから議会の役割を知ろう	開会セレモニー◎基調講演セミナー 河村和徳氏(東北大学大学院 准教授)
	12月5日(日) 【第2回】あなたの思う議員像	ワークショップ「議員・議会に求めるものは？」
	12月18日(土) 【第3回】多くの人が地方議員をやって良いと思えるためには？	ワークショップ「課題の抽出・分析」
令和4年	1月23日(日) 【第4回】あなたが町を変えられる？出来ることを考えよう	ワークショップ「立候補への課題を解決できるか」
	3月26日(土) 【第5回】私たちの議会	あり方ゼミナール 発表会

02

これからの大和町議会のあり方プロジェクト 2021-2022 Vol.01

研究員

## 議員のなり手不足解消に向けての課題は？

近年の議会議員選挙では、なり手不足の傾向が目立ち、私たちの町・大和町でも深刻な状況です。

そこで第3回のプロジェクトでは、議員になるための課題を掘り起こし、解決に向けて自由に話し合いを行いました。

また、ワークショップでは自分が議員として立候補することを想定し、課題をまとめました。



家族、地域、会社の理解・協力は、すべてに共通する総合的な課題です。また、議員になる前となった後でもそれぞれ課題があると感じていることが分かりました。



その他にも自己研鑽が必要な項目や、支援者や議会内での人間関係などや、会社を辞めると議員報酬では家族を養えないといった現実的な課題も挙げられました。

## 意見交換で探る、立候補した場合の問題点

令和4年度第1～3回のプロジェクトは、講師や現職の議員と一緒に課題解決へのセミナーやワークショップに取り組みました。研究員には自分が議員になることを想定して、立候補をした場合の問題点を抽出、そして現職議員と町の課題を話し合い、選挙公約（マニフェスト）を決めて解決策を考えました。また、定数・報酬についても議論しました。

基調講演セミナー



住民が恒常に議会のあり方を探るというこのような取り組みは全国的に例を見ない。議会は住民自治の根幹であり、議会が変わることで、地域が変わる。だからこそ議会のあり方というのは議会だけで決めてはいけない。恒常に住民が積極的に議会のあり方を考えていくことが必要である。議会改革は地域民主主義の実現である。議会はどのような自治をつくっていくか語らなければいけない。また、報酬・定数は現在の議員のためだけではなく、将来多くの人が立候補し、議員活動しやすくなる条件として住民とともに考えていく必要がある。

えとう  
江 藤 としあき  
俊 昭 氏 大正大学 社会共生学部公共政策学科 教授 全国町村議会議長会特別表彰審査委員などを務められ、全国の地方議会について研究し新聞、著書や雑誌などにも執筆されています。

ステップアップセミナー



今の時代、地方議会は大きな重責を担っている。少子高齢化、過疎化などで存続が危うい自治体もある。議員のあり方も「名誉職」、「集落の代表」から自治体の持続可能性を高めるために当局側と一緒に政策を生み出していく役割が求められている。また、分断の時代といわれている中で、議会は町の規模で言えば中心部と周辺部、若者と高齢者という分断を回避させる可能性のある役割だと考える。だからこそ議会を討論の広場にしていくことが必要になってくる。

いまさと なおき  
今里 直樹 氏 河北新報社 編集局報道部 編集局次長兼報道部長 河北新報社泉支局長などを経て現職 報道の視点から見た議会について講演をいただきました。

ステップアップセミナー



地方議員の社会保険について、問題となるのは議員の報酬の少なさである。額面(240,000円)の金額から医療と年金に必要な保険料を個別に納めなくてはいけない。また、地方議員は時間的に労働時間が決まっているものではなく、24時間議員として意識することも必要となる。地方議員は社会保障が不十分で、ライフプランを考えるときは、民間の保険会社を活用するなど、リスクを最低限にする取り組みを個別に行う必要がある。

なかむら社会保険事務所 社会保険労務士、行政書士、ファイナンシャルプランナーの知見から、地方議会議員の社会保障制度について講演をいただきました。

## STAGE.2 令和4年度のワークショップ日程と内容

開催時期	テーマ	活動内容
令和4年	7月24日(日)	【第1回】これから議員制度 基調講演セミナー・ワークショップ 江藤俊昭氏(大正大学 教授)
	8月27日(土)	【第2回】議員を取り巻く社会状況、 ステップアップセミナー・ワークショップ ライフステージと経済 今里直樹氏(河北新報社)・中村徹氏(社会保険労務士FP)
	9月17日(土)	【第3回】立候補の条件、 ワークショップ ゼミナール議会に向けて
	10月29日(土)	【第4回】ゼミナール議会(模擬議会) 町執行部への一般質問 決議文議決

東北大学大学院河村准教授は、議員になると休まる暇がなくなる、災害が起きそうなとき、地域のことや被災の状況を確認する必要が出てくる。家族も議員の家族という目で見られると話された。

7月24日のセミナーワークショップでは、宮城大学の平岡教授がファシリテーターとなり、昨年度のワークショップでも課題となっていた時間とお金、議員の定数と報酬について意見を出し合いました。ワークショップの最後には議員の定数と活動量、そして報酬についてのアンケートを実施しました。(結果は下記の表を参照)

アンケートの結果では、定数は現状維持の考え方が多く、次に増やす、減らすの順となりました。また、議員活動量を増



定数と報酬について、みんなの考えを投票してまとめました。



セミナーに耳を傾ける真剣な研究員。

やして、報酬も増やすという意見が大多数でした。議員になっても議員報酬だけで生活が成り立つかという現実的な課題から、27年間変わっていないことについての意見が出されました。また、議員年金は平成23年6月に廃止され、厚生年金や健康保険制度も無く、議員には会社員や公務員のような社会保障制度が全く無いことが説明され、参加者からは社会保障制度の重要性の声も聽かれました。

### これらの太和町議員の定数と報酬についての投票結果（町民22人・議員16人）

定数について	報酬について 活動について	減らすべき	現状維持	町村平均まで 増やすべき	平均以上 増やすべき
	増やすべき		●	● ●	● ● ● ● ●
増やすべき	減らすべき				●
現状維持	増やすべき			● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ● ● ●
	減らすべき				● ●
減らすべき	増やすべき				● ● ● ● ●
	減らすべき			●	

## 町長へ質問! ゼミナール議会で、まちの課題を問う

令和4年第4回のプロジェクトは、今までワークショップで話し合ってまとめた町の課題を問うために、

研究員が模擬議員となって、議場で町執行部へ一般質問をするという体験をしました。

浅野町長や上野教育長へ鋭い質問をするなど、白熱した議会となりました。

◎日時:令和4年10月29日(土) ◎会場:大和町議会 議場



過疎化地域の活性化を	小学校の統廃合について	大和町バスターミナル 待合環境の改善	町のキャッチフレーズは何か また目指すものは何か	大和町の特色のある 地域連携型教育の実現にむけて	図書館機能を持つ世代間交流ができる多目的施設に関して
<p>過疎化地域に工業団地・住宅団地を造成し、企業誘致や町民増加につながるまちづくりを。</p> <p>造成には課題が多い。まずは移住・定住応援事業で転入者増を図る。</p> <p>企業誘致は雇用創出や経済活性化への有効策となる。人口増が期待できる。国や県に掛け合い、課題を突破するのが町長の仕事では。</p> <p>働く場所の確保に努力する。職住近接のまちづくりを進めて行く。</p>	<p>若い世代が充実した教育環境を求め町外へ移住する現状は過疎化につながる。小学校の統廃合の考えは。</p> <p>地域ぐるみのきめ細やかな教育活動を行っている。統廃合の予定はない。</p> <p>小規模校から中学校へ進学し、不登校になる子どもがいる。町として対応は。</p> <p>不登校の子どもも一人ひとりに応じた支援や指導に取り組んでいる。</p> <p>次の時代を担う子ども達に明るい未来が育まれることを願う。</p>	<p>待合室に空調を設置、Wi-Fiや机も揃え、学生・社会人が待機時間を有効に利用しやすい環境を。</p> <p>アンケートなどで利用者の声を聞き設置を研究していく。</p> <p>長時間待たないで済むバス路線の見直しや利用実態の把握は?</p> <p>近隣町村の公共・民間バス、それぞれ本数に限りがあるなかで工夫し調整している。</p> <p>積極的に利用者を増やす姿勢を。交通弱者に優しいバスターミナルをつくることが大切である。</p>	<p>にぎわい創出事業・吉岡小学校改築事業などがある。</p> <p>町の将来像や魅力のPR手段としてキャッチフレーズは有効。第五次総合計画にある将来像を具体化する施策は。</p> <p>施策が吉岡中心に感じる。他地区での施策は。</p> <p>農業・災害・教育環境など各地区の課題へも取り組んでいる。</p> <p>まちづくりへの参加意識を高めるために、キャッチフレーズの公募や、町民歌の制定、観光大使や地域おこし協力隊の活用なども有効である。</p> <p>様々な連携事業を町民全体への周知に注力し進めていく。</p>	<p>地域連携型の教育事業は、各学校や団体ごとに単発的に行われている印象がある。地域社会と連携した学校教育の具体策は。</p> <p>学校間の連携は自然体験学習、親善陸上記録会、夢と希望と志を語る会など。企業とはプログラミング教育、職場体験など。地域団体からは、農業体験や郷土芸能の伝承などの支援がある。</p> <p>各取り組みを個別的・属的なもので終わらせず、様々な立場の人たちが情報共有して、オール大和町で「子育ち」に取り組む仕組みづくりが重要。</p>	<p>遊び場やカフェなど町民の共有スペースや、アクセスのための町民バス増便も考えているか。</p> <p>町民を交えたプロジェクトチームで考えている。町民バスは利用しやすい運行形態を検討する。</p> <p>狭い町中にバスルートをつくるなら歩道の確保・整備が必要では。</p> <p>ワークショップで町民の意見を聞き進めたい。</p> <p>子どもからお年寄りまで利用できる多目的施設は、町の発展に欠かせない。私たち若者が、これからも住みやすいと思える政策を。</p>

**大和町吉田在住** あいざわ 相澤 さだ子さん

**大和町鶴巣在住** あらき じゅんこ 荒木 淳子さん

**宮城大学 学生** やまうち ゆめ 山内 佑恵さん

**大和町鶴巣在住** さとう 佐藤 ゆり子さん

**宮城大学 教授** ひらおか よしひろ 平岡 善浩さん

**黒川高校 学生** たかはし ここあ 高橋 心愛さん

### 決議文を議決 未来ある子どもたちに誇れる 開かれた議会と まちづくりを求める決議

提出者 遠藤 弥一郎 若生 署  
蜂谷 澄江

結果 賛成:20 反対:0  
全会一致で決議

決議文 議会や議員のあり方について学び、ワークショップでは年代や立場の違うものの同士で、多くの意見を出し合い、議員になるための課題について話し合ってきた。持続可能なまちづくりを続けていくためには、様々な住民の声を行政へ届ける議員と、大和町の未来を議論する議会が必要である。多様な人材が新たなまちづくりに参加しやすく、まちづくりのために多くの住民の声に耳を傾ける開かれた議会でまちづくりを進めていただきたい。町及び町議会においては、住民に寄り添ったまちづくりを進め、その成果としてこれからの未来を担う子どもたちに、誇れる大和町となるようこれからも努められたい。(要約)



東北大大学院 河村 和徳 氏

執行部・議会・市民、それぞれに接点があつてはじめてお互いの信頼は高まる。議会を肌で体験する人を増やし、その経験をコミュニティへ伝播することで執行部や議会の信頼を高めて行く。これからの課題は、この経験をより多くの人に共有してもらい、同時に議会改革へと繋げていくことだ。改革にゴールはなく、時代にあわせ絶えず見直さなければならない。今日は、まさに改革のスタートとなった。



講評

## 「これからの大和町議会のあり方プロジェクト」STAGE.2を終えて

「これからの大和町議会のあり方セミナー」に参加された研究員のアンケートには、ワークショップでは語れなかった思いが込められていました。参加いただきありがとうございました。

参加者  
アンケート

WEBや議会だよりから受ける印象よりも本会議場の雰囲気は張り詰めたものがあり、緊張した。

また、議場で討論するのは、生半可な知識では難しく議員力が問われる場面なので大変だと感じた。 60代／男性

大和町が持つ特色と愛のある町民がいるということを誇りに、よりよいまちづくりを進めていって頂きたいと思う。 20代／女性

議員、議会がメディアで取り上げられる場合、決まって不祥事などである。大和町議会のように頑張っている議会もあるのだからそういう良い面を報道して欲しいと思った。

報われてほしい。 20代／男性



今回の意見を元に今後どうすればと考えると、開かれた議会をもっと実行することが大事かと思いました。

議会を見てくださいと言われても、平日は仕事をしているため、本当に関心がなければ見ないと思う。 40代／男性

町村議会に若い議員が出てこないのは当然だと思う。なぜなら自分の生活基盤がしっかりしていなければ議員はやっていけないからと思うからである。

任期もあり、そう多くない報酬だけで議員として生活していくのは大変だろうと考える。

自然と勤め人以外の自営の人達が議員となる。

70代／女性



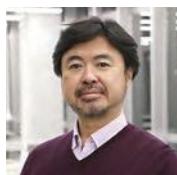
## 「これからの大和町議会のあり方セミナー」に参加して



研究員  
荒木 淳子さん

議員は、選挙のためにお金もかかる。人間性や信頼にも関わる。若い人が議員となるときに、生活力として議員報酬だけでは厳しいとつくづく感じました。

また、議員と話をしてみて、一町民として知らない議会を感じ取ることができました。以前は批判することもありましたが、そう見てはいけないと思いました。参加させていただきありがとうございました。



宮城大学 事業構想学群  
価値創造デザイン学類  
教授  
平岡 善浩さん

私は今回ワークショップの企画運営と参加者の両面の立場から参画し、様々な立場の方々と共に議論した気づきの広がりや学びの深さは、私自身にとって貴重な経験となりました。住民の代表である「首長」と「議員」を「住民」が直接選ぶ『二元代表制』は、結局、町民が主体となって町の将来を決めて推進するための仕組みであり、今回のプロジェクトを契機に町政を自分事として捉え関心関与を持つ方が増えることを期待しています。

「これからの大和町議会の  
あり方プロジェクト」

## 未来への展望

プロジェクトは、まだスタート地点から歩みはじめたばかりです。ワークショップで導き出した理想の議会と議員像は、住民が希望する姿であると考えます。大和町議会はこれからも、開かれた議会、多様な意見が議論される寛容な議会を目指し、住民と共に議論して参ります。

### これからの大和町議会のあり方プロジェクト広報

発行／宮城県大和町議会（議会活性化調査特別委員会） 監修／議会広報常任委員会

編集／これからの大和町議会のあり方プロジェクトワーキングチーム 編集発行責任者／議長 高平 聰雄

電話／022-345-7506 メール／gikai@town.taiwa.miyagi.jp